

- ◆ (仮称)市民ホール(大ホール/小ホール)の舞台設備は、以下に示した仕様を標準として提案を行うこと。  
但し建築計画に合わせ、部分的変更、更なる提案については提案者に委ねるものとする。

## 【舞台機構設備】

## 1.大ホール

設備	性能水準
客席サスペンションライトバトン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、レベル設定・レベル表示機能有、過積載表示機能付</li> <li>・プロセニウムスピーカの音線および三点吊マイクの吊りワイヤとの位置調整を行うこと</li> <li>・積載荷重は、800 kg程度を見込むこと</li> </ul>
緞帳バトン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:可変速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・昇降速度は、最高速度 90m/分以上とし、最低速度は最高速度の 100 分の1以上の低速とすること</li> <li>・積載荷重は、必要となる本緞帳の積載荷重以上を見込むこと。</li> </ul>
暗転幕バトン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:可変速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・昇降速度は、最高速度 90m/分以上とし、最低速度は最高速度の 100 分の1以上の低速とすること</li> <li>・積載荷重は、必要となる暗転幕(ウールサージ相当)の積載荷重以上を見込むこと</li> </ul>
ティザー・ウイング (上下一対)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、ティザーのみレベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・積載荷重は、ティザー・ウイングともに必要となる積載荷重以上を見込むこと</li> <li>・舞台の見かけの開口高さ調整(ティザー)と開口幅調整(ウイング)が行えること</li> <li>・仕上げは、袖幕と同等の幕地を裏明かりの抜けがないように遮光した上で張り込んだものとする</li> </ul>
ライトブリッジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・積載荷重は、建築的な仕上げを除いて舞台照明設備工事分として、2,500 kg程度を見込むこと</li> <li>・ティザー、ウイングの舞台奥側に配置する</li> <li>・フライブリッジへの乗込みは、フライギャラリー(上下共)から乗込める機能を備えること</li> <li>・ボーダーライトおよびスポットライトの投光拠点として機能する</li> </ul>
吊物バトン (15 台程度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:可変速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・昇降速度は、最高速度 60m/分以上とし、最低速度は最高速度の 100 分の1以上の低速とすること</li> <li>・積載荷重は、最大 1,000 kg以上を見込むこと</li> <li>・同期運転、シーン運転の機能を備えること</li> <li>・一文字幕、袖幕は、必要枚数を任意の吊物バトンに簡便に吊込み、必要に応じて吊換えができるように工夫をすること</li> <li>・客席上部に吊物バトンを計画する場合には、過積載表示機能を備えること</li> </ul>

設備	性能水準
重量バトン (1台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 2段階変速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・積載荷重は、天井反射板の展開に必要な荷重を見込むこと</li> </ul>
ボーダーライトバトン(1台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・第2ボーダーライトとして機能する位置に計画し、スクリーンを共吊りする</li> <li>・スクリーンは、コンベンションや映像の投影に支障のない大きさとする</li> <li>・スクリーン画面の大きさの調整が可能なように計画する</li> <li>・積載荷重は、上記機能を十分に満たした荷重以上を見込むこと</li> </ul>
サスペンションライトバトン (3台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・可動プロセニウムブリッジおよびフライブリッジの位置を考慮して、適宜配置する</li> <li>・積載荷重は、舞台照明設備工事分として1,200 kg以上を見込むこと</li> </ul>
アッパー水平ライトバトン(1台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・水平幕との距離に配慮した位置に計画すること</li> <li>・積載荷重は、舞台照明設備工事分として1,500 kg以上を見込むこと</li> </ul>
大黒幕バトン(1台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 可変速</li> <li>・昇降速度は、最高速度 60m/分以上とし、最低速度は最高速度の100分の1以上の低速とすること</li> <li>・積載荷重は、必要となる大黒幕(ウールサージ相当)の積載荷重以上を見込むこと</li> </ul>
水平幕バトン(1台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速</li> <li>・アッパー水平ライトバトンとの距離、音響反射板の可動範囲などとの調整を図った上で計画すること</li> <li>・積載荷重は、必要となる水平幕(11号帆布相当)の積載荷重以上を見込むこと</li> </ul>
東西バトン (上下各3台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・それぞれのバトン配置は、袖幕の位置を考慮して計画する</li> </ul>
東西幕レール (上下共)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フライギャラリ下部に固定の幕レール(Wレール)を計画する</li> <li>・適宜短冊状の東西幕(ウールサージ相当)を可動させて、舞台袖を見切るように計画する</li> </ul>
天井反射板・正面反射板共吊型音響反射板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速</li> <li>・プロセニウム最大開口(幅および高さ)をカバーし、奥行き12m程度の天井反射板と正面反射板を計画する</li> <li>・音響反射板は、水平幕の後部に共吊式に格納できるように計画する</li> </ul>
側面音響反射板 (一対)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速</li> <li>・演奏者やピアノの登退場口を設ける</li> <li>・演奏者登退場口には、のぞき窓を計画する</li> <li>・セット時にプロセニウム壁との接触の可能性がある場合には、側面音響反射板の舞台よりの前部を折り曲げるなど、適宜工夫を施すこと</li> </ul>
幕設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緞帳は、製作費用(原画料を含んで)として18万円/m<sup>2</sup>程度を見込む。原画については、別途指定する場合に限り、費用を支弁する。</li> <li>・引割幕、暗転幕、紗幕、一文字幕、袖幕、大黒幕、水平幕、東西幕、スクリーン幕を適宜</li> </ul>

設備	性能水準
	計画する ・スクリーンにおいては、枠張り込み式とし、必要に応じてその他の吊りバトンに吊りか ・えられるように計画する
舞台機構操作盤	・舞手下手袖で操作することを基本とするが、本番以外での使用や安全を配慮して下手以外の位置での操作も可能なように、移動型卓で計画する。 ・上記の使用に配慮して、舞台機構操作卓のコネクターボックスは、下手以外の位置にも適宜計画する ・操作性、視認性、安全操作に配慮した舞台機構操作卓とすること ・舞台機構操作を行う操作員を特定する ID カードをキーとする このカードでは、操作員を判別するだけでなく、操作履歴やトラブルなどの履歴を記憶できるように計画する。
舞台機構制御盤	・電圧や温度など機器の動作環境に影響のない位置に機器を配置する ・制御盤の発生音に影響のないように配慮する ・異常時に舞台管理担当者が短時間で容易にアクセスできるように計画する ・将来、機器の更新が必要になった場合に容易に機器の搬出、搬入が行えるように計画する

## 2.小ホール

設備	性能水準
プロセニアムスピー ーカ昇降バトン	・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、レベル設定・レベル表示機能有、過積載表示機能付 ・積載荷重は、想定されるスピーカを前提に検討すること
客席サスペンショ ンライトバトン	・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、レベル設定・レベル表示機能有、過積載表示機能付 ・積載荷重は、800 kg程度を見込むこと
吊物バトン (10 台程度)	・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速 ・昇降速度は、10m/分 ・積載荷重は、最大 400 kg程度を見込むこと ・一文字幕、袖幕は、必要枚数を任意の吊物バトンに簡便に吊込み、必要に応じて吊換えができるように工夫をすること ・客席上部に吊物バトンを計画する場合には、過積載表示機能を備えること
ボーダーライトバ トン(1 台)	・駆動方式:電動ドラム巻取式、昇降速度:一定速、レベル設定・レベル表示機能有 ・いずれかのボーダーライトバトンにスクリーンを共吊りする ・スクリーンは、コンベンションや映像の投影に支障のない大きさとする ・スクリーン画面の大きさの調整が可能なように計画する ・積載荷重は、上記機能を十分に満たした荷重以上を見込むこと

設備	性能水準
サスペンションライトボタン (2 台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・可動プロセニウムブリッジおよびフライブリッジの位置を考慮して、適宜配置する</li> <li>・積載荷重は、舞台照明設備工事分として 1,200 kg 以上を見込むこと</li> </ul>
アップーホリゾン トライトボタン(1 台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速、レベル設定・レベル表示機能有</li> <li>・ホリゾン幕との距離に配慮した位置に計画すること</li> <li>・積載荷重は、舞台照明設備工事分として 1,500 kg 以上を見込むこと</li> </ul>
大黒幕ボタン (1 台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 可変速</li> <li>・昇降速度は、最高速度 60m/分以上とし、最低速度は最高速度の 100 分の 1 以上の低速とすること</li> <li>・積載荷重は、必要となる大黒幕(ウールサージ相当)の積載荷重以上を見込むこと</li> </ul>
ホリゾン幕ボタン (1 台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動方式: 電動ドラム巻取式、昇降速度: 一定速</li> <li>・アップーホリゾンライトボタンとの距離、音響反射板の可動範囲などとの調整を図った上で計画すること</li> <li>・積載荷重は、必要となるホリゾン幕(11 号帆布相当)の積載荷重以上を見込むこと</li> </ul>
東西幕レール (上下共)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フライギヤラリー下部に固定の幕レール(W レール)を計画する</li> <li>・適宜短冊状の東西幕(ウールサージ相当)を可動させて、舞台袖を見切るように計画する</li> </ul>
幕設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引割幕、暗転幕、紗幕、一文字幕、袖幕、大黒幕、ホリゾン幕、東西幕、スクリーン幕を適宜計画する</li> </ul>
舞台機構操作盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台下手袖で操作することを基本とするが、本番以外での使用や安全を配慮して下手以外の位置での操作も可能なように、移動型操作卓として計画する。</li> <li>・上記の使用に配慮して、舞台機構操作卓のコネクターボックスは、下手以外の位置にも適宜計画する</li> <li>・操作性、視認性、安全操作に配慮した舞台機構操作卓とすること</li> <li>・舞台機構操作を行う操作員を特定する ID カードをキーとする このカードでは、操作員を判別するだけでなく、操作履歴やトラブルなどの履歴を記憶できるように計画する。</li> <li>・別途仕込みおよび点検用のハンディタイプの操作卓を計画する</li> </ul>
舞台機構制御盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電圧や温度など機器の動作環境に影響のない位置に機器を配置する</li> <li>・制御盤の発生音に影響のないように配慮する</li> <li>・異常時に舞台管理担当者が短時間で容易にアクセスできるように計画する</li> <li>・将来、機器の更新が必要になった場合に容易に機器の搬出、搬入が行えるように計画する</li> </ul>

## 【舞台照明設備】

## 1.大ホール

設備	性能水準
負荷設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主舞台上部に、ボーダーライト、サスペンションライト、アッパー水平ライト、トーマタルタワーライト(上下)、フライギャラリーライト(上下)、天井反射板ライトなどを適宜計画する</li> <li>・ボーダーライトについては、切換えてサスペンションライトも使用できるようにする</li> <li>・舞台内には、フロアコンセント、ウォールコンセント、仮設電源盤などを適宜配置する</li> <li>・客席空間内には、客席サスペンションライト(ケーブルリール巻取)、フロントサイドスポットライト(上下)、シーリングスポットライト、バルコニーライト、フォロースポットライト、フロアコンセント、ウォールコンセントなどを適宜配置する</li> <li>・ムービングライトなどに対応できる機能を計画する</li> </ul>
調光設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹の受電容量は、概ね 500KVA 程度を想定し、それ以外に仮設電源盤として 120KVA 程度を確保する。ただし、ランニング経費の低減と舞台照明の配置や回路のバランスを考慮した容量を設定する</li> <li>・調光器は、断球、漏電、温度異常などが検知できるインテリジェント調光器とし、固定の調光回路としては、230 回路程度を確保すること</li> <li>・固定の調光回路の他にインテリジェント機能を備えた移動型調光器を適宜導入し、自由度の高い舞台照明の演出が可能な計画とする。移動型調光器は、冷却ファンのない静音タイプで軽量型とする</li> <li>・調光操作卓は、デジタル調光卓とする。必要に応じて客席内での利用も想定し、移動に対応できる配慮をする。また、客席内には、そのことに対応したコネクターボックスや操作スペースを確保する</li> <li>・調光回路数に応じたプリセットフェーダー卓を計画する</li> <li>・舞台袖(舞台機構操作卓付近)で簡易な遠方操作が可能なように計画する</li> <li>・調光操作卓で、客席内の通路誘導灯および非常口誘導灯の一時消灯が可能なような機能を備えること。ただし、実施については所轄官庁との協議および指導を前提とする</li> <li>・調光信号の伝送は、イーサネットを基本とする</li> </ul>

## 2.小ホール

設備	性能水準
負荷設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホール上部に、ボーダーライト、サスペンションライト、アッパー水平ライト、客席サスペンションライト(ケーブルリール巻取)、フロントサイドスポットライト(上下)、シーリングスポットライト、バルコニーライト、フォロースポットライト、フロアコンセント、ウォールコンセント仮設電源盤などを適宜計画する</li> <li>・ムービングライトなどに対応できる機能を計画する</li> </ul>
調光設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹の受電容量は、概ね 120KVA 程度で、別途 20KVA 程度の仮設電源盤を想定する。ただし、ランニング経費の低減と舞台照明の配置や回路のバランスを考慮した容量を設定する</li> <li>・調光器は、断球、漏電、温度異常などが検知できるインテリジェント調光器とし、固定の調光回路としては、80 回路程度を確保すること</li> </ul>

設備	性能水準
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定の調光回路の他にインテリジェント機能を備えた移動型調光器を適宜導入し、自由度の高い舞台照明の演出が可能な計画とする。移動型調光器は、冷却ファンのない静音タイプで軽量型とする</li> <li>・調光操作卓は、デジタル調光卓とする。必要に応じて客席内での利用も想定し、移動に対応できる配慮をする。また、客席内には、そのことに対応したコネクターボックスや操作スペースを確保する</li> <li>・調光回路数に応じたプリセットフェーダー卓を計画する</li> <li>・舞台袖(舞台機構操作卓付近)で簡易な遠方操作が可能なように計画する</li> <li>・調光操作卓で、客席内の通路誘導灯および非常口誘導灯の一時消灯が可能なような機能を備えること。ただし、実施については所轄官庁との協議および指導を前提とする</li> <li>・調光信号の伝送は、イーサネットを基本とする</li> </ul>

## 【舞台音響設備】

## 1.大ホール

設備	性能水準
音響設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術、音楽芸術、集会・大会など多様な利用に対して過不足なく対応できる音響設備(拡声機能、録音機能、再生機能など)を計画する</li> <li>・音響設備は、デジタルシステムを基本とするとともに、ノイズ対策や将来の拡張性、更新などにも配慮した設備として計画する</li> <li>・客席全体の音圧分布やバランスなどに配慮した設備計画とする。また、建築音響とのバランスにも十分に配慮し、整合性の取れた設備計画とする</li> <li>・客席に向けて、プロセニウムスピーカやサイドスピーカ、フロントスピーカなどを計画すると共に、ウォールスピーカやシーリングスピーカを併せて計画する。また、特定の各席に向けた補助スピーカなども客席配置を考慮して計画する</li> <li>・客席内に向けては、基本的に移動型を前提としたフィードバックスピーカやサイドスピーカ、ギャラリースピーカなどの設置が可能なスピーカおよびマイクのコネクターボックスを適宜計画する</li> <li>・客席内に三点吊りマイクを計画する</li> <li>・音響調整卓は、国内での実績を持つデジタル卓を計画する</li> <li>・調整室には、デジタル卓を中心に周辺機器架を適宜配置する。</li> <li>・必要に応じて客席内での音響調整(場内 PA)が可能なようにコネクターボックスと操作スペースの確保、周辺機器の移動が可能なような計画とする。</li> <li>・舞台袖(舞台機構操作卓付近)で簡易な遠方操作が可能なように計画する</li> <li>・多様な舞台利用に対応したスピーカ、マイク、ケーブル、スタンドなど移動器具を過不足なく計画する</li> <li>・難聴者支援装置を適宜計画する</li> </ul>

設備	性能水準
舞台連絡設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構操作卓近辺に舞台監督連絡卓を計画する。必要に応じて他の設備や機能と調整を図り、舞台袖を有効に活用するように配慮する</li> <li>・舞台各所や調整室、投光室など舞台進行上不可欠な場所・位置にインカム、インターフォンなどの連絡設備を計画する。また、搬入口やロビーなど仕込みや観客誘導にとっても必要な箇所にも同様の設備を計画する。ただし、全て同じ仕様の設備を設置するのではなく、効率的・効果的な設備配置に努める</li> <li>・上演中の音をモニタリングするためのエアモニターマイクを設置し、ロビー・ホワイエ、楽屋などバックステージエリア、管理関連諸室などで出力できるようにモニタースピーカを適宜設置する</li> <li>・舞台進行や観客誘導の状況を監視するための ITV カメラを舞台および客席内、もぎり、ホワイエ周りに適宜設置すると共に、ITV モニターを舞台袖、ホワイエ、楽屋、管理事務室など適宜必要箇所に設置する</li> <li>・テレビ中継にも配慮し、中継車駐車スペース近くに連絡設備の接続盤を計画する</li> </ul>
映像設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールの規模や距離に適したビデオプロジェクター(DLP)を計画する</li> <li>・各種コンピュータと接続ができ、プレゼンテーション(静止画、動画)などの利用できること。その場合のオペレーションが舞台部でも支障がないような設備計画とする。同時にハウススピーカを利用して、音声の再生もできる計画とする。</li> <li>・周辺に DVD、ビデオなどの映像再生装置を計画する</li> <li>・簡易な操作については、舞台周りで行えるような計画とする</li> </ul>

## 2.小ホール

設備	性能水準
音響設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術、音楽芸術、集会・大会などの利用に加えて、平土間を活かした様々な利用が想定される。これらに対して十分に対応できる音響設備(拡声機能、録音機能、再生機能など)を計画する</li> <li>・音響設備は、デジタルシステムを基本とするとともに、ノイズ対策や将来の拡張性、更新などにも配慮した設備として計画する</li> <li>・客席全体の音圧分布やバランスなどに配慮した設備計画とする。また、建築音響とのバランスにも十分に配慮し、整合性の取れた設備計画とする</li> <li>・客席に向けて、プロセニアムスピーカやサイドスピーカを計画すると共に、ウォールスピーカやシーリングスピーカなども併せて計画する。また、特定の各席に向けた補助スピーカなども客席配置を考慮して計画する。</li> <li>・客席内に向けては、基本的に移動型を前提としたフィードバックスピーカやサイドスピーカなどの設置が可能なスピーカおよびマイクのコネクターボックスを適宜計画する</li> <li>・音響調整卓は、国内での実績を持つデジタル卓を計画する</li> <li>・調整室には、デジタル卓を中心に周辺機器架を適宜配置する。</li> <li>・必要に応じて客席内での音響調整(場内 PA)が可能なようにコネクターボックスと操作スペースの確保、周辺機器の移動が可能なような計画とする。</li> </ul>

設備	性能水準
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台袖(舞台機構操作卓付近)で簡易な遠方操作が可能なように計画する</li> <li>・多様な舞台利用に対応したスピーカ、マイク、ケーブル、スタンドなど移動器具を過不足なく計画する</li> </ul>
舞台連絡設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構操作卓近辺に舞台監督連絡卓を計画する。必要に応じて他の設備や機能と調整を図り、舞台袖を有効に活用するように配慮する</li> <li>・舞台各所や調整室、投光室など舞台進行上不可欠な場所・位置にインカム、インターフォンなどの連絡設備を計画する。また、搬入口やロビーなど仕込みや観客誘導にとっても必要な箇所にも同様の設備を計画する。ただし、全て同じ仕様の設備を設置するのではなく、効率的・効果的な設備配置に努める</li> <li>・上演中の音をモニタリングするためのエアモニターマイクを設置し、ロビー・ホワイエ、楽屋などバックステージエリア、管理関連諸室などで出力できるようにモニタースピーカを適宜設置する</li> <li>・舞台進行や観客誘導の状況を監視するための ITV カメラを舞台および客席内、もぎり、ホワイエ周りに適宜設置すると共に、ITV モニターを舞台袖、ホワイエ、楽屋、管理事務室など適宜必要箇所に設置する</li> <li>・テレビ中継にも配慮し、中継車駐車スペース近くに連絡設備の接続盤を計画する</li> </ul>
映像設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールの規模や距離に適したビデオプロジェクター(DLP)を計画する</li> <li>・各種コンピュータと接続ができ、プレゼンテーション(静止画、動画)などの利用できること。その場合のオペレーションが舞台部でも支障がないような設備計画とする。同時にハウススピーカを利用して、音声の再生もできる計画とする。</li> <li>・周辺に DVD、ビデオなどの映像再生装置を計画する</li> <li>・簡易な操作については、舞台周りで行えるような計画とする</li> </ul>